



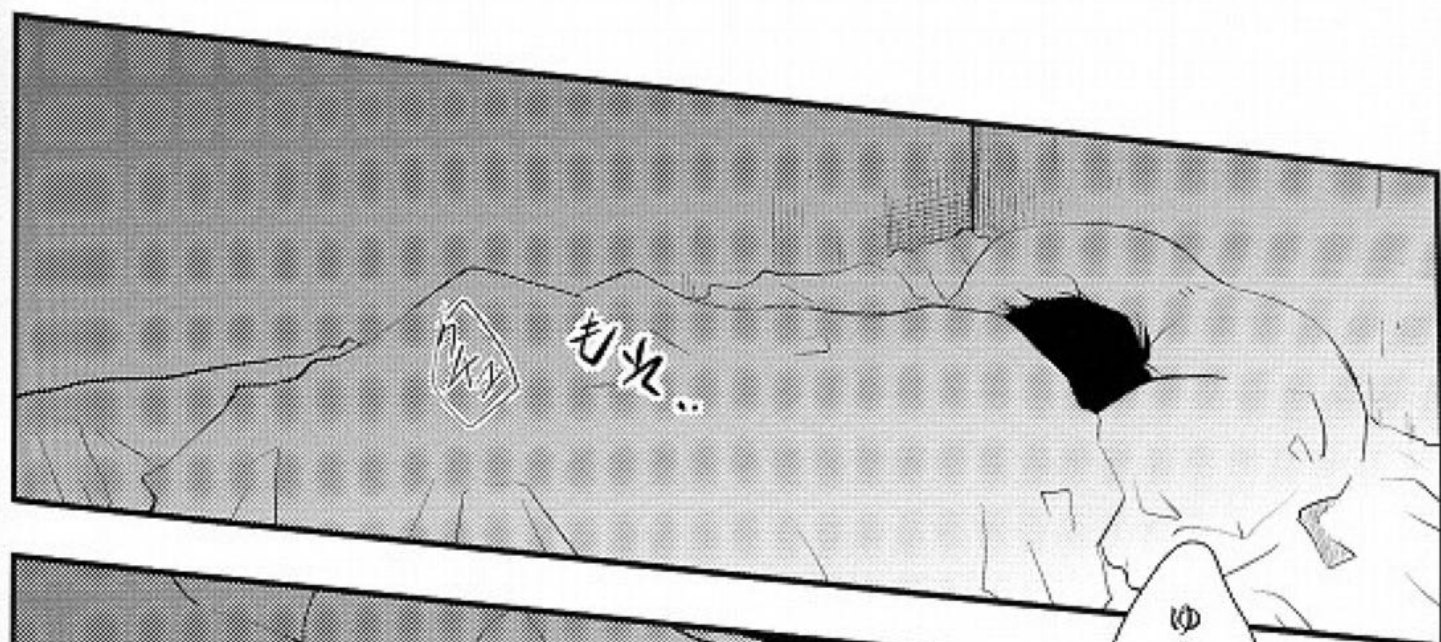
僕らの頭上に福音は鳴らす

Yukio x Rin : BLUE EXORCIST FAN BOOK vol.04 R18

自覚してしまっただけ
おさえるのが難しいのは
自分の性格だからと
いつも諦めがあった。

それでも、今回は
随分と長い間
我慢した方だ、とも思う。

何故なら、
その想いを
ぶちまけたところで
誰も幸せになど
ならない、と信じていたからだ。

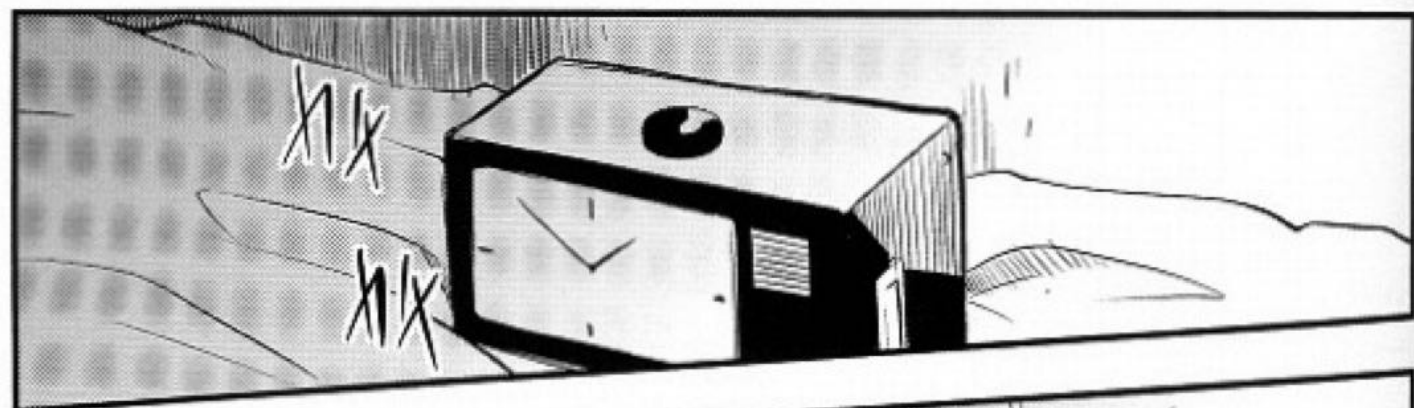




弟を想像して
欲望を募らせる



想いが、爆発しそうだ





雪男:!?



帰って来た!



この臭い——

はあ

悪魔の血と
硝煙と

はあ



薬品……
そして人間の
血の匂い——

はあ

疲れきった弟の姿に
欲情するなんて言ったら
殺されるかな、と
不謹慎な事を思いながら

今は弟を心配する
良い兄貴でいようと
思った



はあ

触らない方がいい

それより
酷い臭いだろ



少しね…

はあ



雪男…
怪我してんのか？



雪

だから
不意打ちだった

よ……っ!?

救急箱
取ってくるから
ベッドで休め



でもお前…

雪男が
俺に……

っん……

んう……っ

……!!

雪男……ッ!!

お、まえ……

何、考え
て……ッ!!

目エ・覚ませ……っ!!

あ……



ごめん

か……
"彼女"と
間違えた……



わ、りい……
お前ケガ
してんのに



シャワー
浴びてくる
先寝ててね

驚いて思わず
手を出した事を
猛烈に後悔した



疲れてて
色々混乱
してて……

今のは
忘れて……
……ごめん

あ……うん……



……？



雪男の言葉が
頭の中を
グルグルと――

「彼女」なんて
きいてない

俺の雪男への気持ちは
どうしたらいいんだ、とか
色々な文句が
頭を支配していたけど

「彼女」と
間違えた……って

俺を……？

どんだけ
イカツイ
彼女だよ……

ははっ

は、は……

……っ

失恋なのかと
気が付いたら

俺やっぱり

雪男が――

……きた

涙が出た。



っ…

はあ

…さん…

はあ



は…っ…

っ…み…

はあ

はあ

兄さん…ッ



あ……

なに……?

きゅっ



驚いた

部屋で待ってるから



え……?
兄……さん?

お前さ

偶然聞いた
とは言え……
まさか雪男が?



我慢しないで

いっよ



雪男

……ッ

偶然でもいい
これに賭けようと
思った

ちよっ……ど……

待って……！
兄さん！！

このチャンスは
神様の導きか？
悪魔の甘言か？

タオル！

置いといた
からな！

兄さん！！

待ってる……て
どういう事だよ！

クソ……ッ

どっちだっていい
俺は雪男が欲しい

はあ…

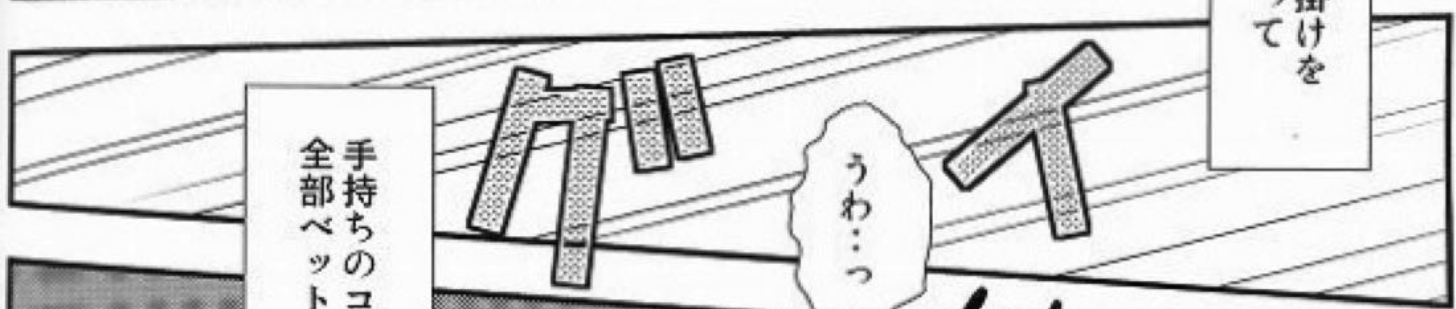
ハッ
グ
タ

雪男

兄…さん

はあ…

はあ





任務で
氣イ昂ぶって
我慢できない
んだろ…？

いいよ
俺にぶつけて



なっ

何言ってるんだ

そんなの…

ダメ、だ

ドキッ



”彼女”の
かわりでいい

雪男を手
入れるため
の賭けをしよう

いいよ

ち……違……
あれはっ……

あー……
俺に突っ込むのは
さすがに……嫌か

じゃあさ……俺が
しやぶってやる

うわ！

な……

あ……

ちよ……
兄さ……あ……

や……め……

ヤメねえ



わか…った！
わかった
からっ…！
兄さん…っ！





いいよ
慰めてやる

兄さん本気？
身代わりを
するつもり？

…わかった



さっきの雪男の
つぶやきが

確信はあった
でも、怖い。



聞き間違いだったらと
思うと怖くて
誰かの身代わりという
保険をかけて

でも、一度触れたら
手放せそうにない
その熱のために

兄さん

でも大分
俺に割りの
良い賭けだと
信じて。

挿れる…よ？

うん…

あっ！

っ…あ！

ごめん

痛い



.....



兄さんなんか
隠してるだろ
何でこんな事
...兄さんらしく
ないよ



平気...だ



なんで風呂で
彼女じゃなくて
俺の事呼びながら
シテんだよ...

.....!

お前が嘘
つくからだっ
バカ!



隠してなんか
.....

うそつき
じゃあなんで
そんな
泣いてるの?



泣きたくなかったのは
ここまでやっという
本当のこと言わない
バカメガネが
いるからだよ!

俺も
お前のコト
考えてしてたから
いいんだよっ



聞こえたんだ...
ごめん...

あークソ:
違うって!

その...
ぼくは...

え...
に...さん...

兄弟で
こんな気持ち
オカシイって
思ったけど…
俺 嘘苦手
だからさ

僕の事
からかってる
んじゃない
ないだろな

僕は…
僕だってずっと
隠してたのに…

俺
雪男が好きだ

なあ雪男
お前は？

ホントの事
言えよ

—
うん



ああ、ごめん
そんな不安な顔
しないで…

もう一度ちゃんと
最初からさせて？

あ…

本当の事
言うよ



ふあっ!?

え…

なんで…



不安が高揚に。
怖れが安心に。

僕は兄さんが
好きだ

うん

ずっと好きだった

うん…

兄さんが欲しい

俺も…
雪男が欲しい

うん、あげる
僕の全部





なあ

俺達さあ
兄弟なのに…

本当によかった
—の
かな



後悔なんか
しねえ…

でも
お前の事
考えると—
やっぱり迷う



いいよ

兄さんがいいなら
僕だっていいんだ

ん…



いいよ

僕はい

兄さんは
後悔してるの？



神様の声が
聞こえなくても
兄さんの声が
聞こえればよいよ

俺達ってホント
神サマに
嫌われるような手
ばっかだな

少し寝よう？

うん

手に入れた
それを――
大事に
潰さないように守る


ごめんな

雪男

祝福されないその名は。

あいしてる





こんな事に引きずり込んでゴメンな雪男

END.

Yukio x Rin : BLUE EXORCIST FAN BOOK vol.04 : 103000 Presents 2011 SUMMER

僕らの頭上に福音は鳴らず

